

国語科学習指導案

1. 教材名 「ごんぎつね」 (新美南吉)
2. 単元目標 登場人物の心情や場面についての描写を、叙述をもとに読み、その内容についての考えをまとめ、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。
登場人物の心情や場面の様子についての描写を、叙述をもとに読むことができる。(読)
自分の考えを持ち、進んで発表することができる。(関)
自分の考えや意図が分かるように発表することができる。(話)
相手の意見と自分の意見を比べながら聞くことができる。(聞)
場面の様子がよく分かるように読むことができる。(読)

3. 知的好奇心を引き出すための指導の工夫

(1) 指導の工夫

「ごんぎつね」はひとりぼっちのきつね「ごん」と「兵十」との心のすれ違いが、美しい情景描写を背景に描き出された作品である。そして、児童の感受性に強く訴え、深く心に響く作品でもある。しかし、文章が長く、ともすればその良さに気づかないまま学習を終えることにもなりかねない。ごんの心の変化や場面の描写などを一つ一つの言葉に着目させながらとらえさせていき、そこから、作品全体を大きくとらえ、その良さを児童に味わわせていきたい。

本教材では、児童の知的好奇心を引き出すために次のような手立てを考えた。

伝え合い高め合う授業にするための工夫

本単元では、話し合い活動によって、自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いて自分の考えを深めたりすることの良さを児童に知ってもらいたいと考えた。そこで、全員が意見を言えるように、考える時間を十分に取ったり、友だち同士で意見を交流する機会を与えたりしていきたい。また、「～さんに賛成(反対)で、～です。」という発言の仕方や相手を見て話すといった話し合いのルールを定着させたい。そして、児童主体になるような授業の進め方を工夫する事によって、児童自身が伝え合い高め合うことに喜びを感じられるような授業にしたい。

絵を使った場面描写の読み取り

場面の描写を読み取る際に、文章から読み取ることを難しいと感じる児童がいる

。そこで、第3場面では物置の後ろから兵十を見つめるごんと兵中の位置関係や、第4

場面でごんがお城の下を歩いて兵十達と出会うまでの道筋、第6場面であの中へ入り、ごんへと次々と変える兵十の視線などの叙述を分かりやすく読み取るために、絵を使って学習していくようにしたい。

(2) 指導計画(全13時間扱い)

第1次 全文を読み、印象に残った部分を書きその理由も書く。(1)
音読練習をする。(1)

第2次 1の場面：ごんの様子といたずらぶりを読み取る。(1)

2の場面：おっかあの死とごんの後悔を読み取る。(2)

3の場面：つぐないをするごんの様子を読み取る。(1)

4、5の場面：兵中と加助とごんの様子を読み取る。(1)

6の場面：兵十の心情の変化やごんの様子を読み取る。(3)(本時1 /

3)

第3次 まとめの作文を書く。(3)

4. 本時

(1) 本時の目標 兵十の気持ちがどこで変化したかを、叙述や絵をもとに読み取ることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点(評価)
<p>1. 第6場面を音読する。(たけのこ読み)</p> <p>2. 第6場面の始めと終わりの兵十の気持ちを考える。</p> <p>始め...憎い、殺してやろう</p> <p>終わり...ごめん、後悔</p>	<p>2. 違いをはっきりさせるために、一言で表すよう指示する。</p> <p>場面の始めと終わりの兵十の心情を読みとることができる。</p>
<p>兵十の気持ちが大きく変化したのはどこだろう。</p>	
<p>3. ごんを撃った後の、兵十の視線の変化について考える。</p> <p>4. 兵十の気持ちはどこで変化したかを、3で考えた視線の変化をもとに考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A...家の中が荒らされていないから。 ・ B...栗を見てごんが持ってきた物だと気付いたから。 ・ C...「おや。」という驚きからすべてを知ったから。 ・ D...ごんを見てすべてを知り、後悔したから。 <p>5. 第6場面を要約し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 兵十がごんを撃った話。 ・ ごんが兵十に撃たれた話。 	<p>3. 兵十がごんを撃った後、まず始めに家の中を見たことを全体で確認し、その後くり、ごんへと視線が変化したことを、叙述をもとに考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間があれば、「見る」「目につく」「目を落とす」といった言葉の意味の違いも、絵をもとに考えさせる。 <p>4. 話し合い活動では、まず、A～Dのどの考えと同じか挙手させ教師側で指名をし、児童に意見を発表させる。(あまり発表が得意でない子を意図的に指名したい。)その後は、児童の相互指名で話し合いを進めていく。</p> <p>兵十の気持ちの変化した場所を読み取り、話し合うことができる。</p> <p>5. なかなか要約ができない児童には、「だれがどうした話か。」という視点で書けばよいことを指導する。</p>

6. 授業の視点

兵十の気持ちがどこで変化したかを読み取るという活動は、児童が意欲的に話し合うことに効果的であったか。

兵十の視線の変化を絵で表すことが、叙述を分かりやすく読み取る上で効果的であったか。